



第20回例会報告(11月19日)

【出席報告】

・会員数 55名
 ・当日出席率 65.11%
 <欠席会員> 原(竜)、檜垣(圭)、檜垣(巧)、平井、飯、伊藤、川上、小堀、栗西、松田、村上(裕)、西本、尾越、竹田、矢野
 【免除会員】 青野、原(真)、原田、門田、松本、宮本、村上、坂本、高木、渡邊(一)、八木
 <11/5欠席補填> (10/24米山)松木 (10/26)原(竜)、檜垣(賢)、檜垣(巧)、菅、川上、近藤(正)、西本、尾越、竹田、渡辺、矢野、吉田 (10/31雑誌)大澤 (11/2 IAC)松田

会長報告・2008-2009年度一人当たりの年次寄付額が地区内で2位になりましたので、RI事務局より御礼状とバナーが届きました。

・ガバナー事務所より、サイクロン被災地・中学校再建プロジェクト参加の御礼と第1回の報告書が届きました。

幹事報告・忘年夜間例会のご案内：12月24日(木)18:30より、今治プラザホテル2階レストランPepeにて開催いたします。皆様のご参加お待ちしております。

・インターシティミーティングの登録〆切は今月末ですので、出欠の回覧をご確認下さい。また、12月15日以降は登録料の返金はできませんのでご注意下さい。

会員卓話 愛媛新聞社 常務取締役 瀧幸勝也氏 「リオデジャネイロの策略」

先月コペンハーゲンで開かれた100総会で、2016年の夏季オリンピック開催都市がブラジルのリオデジャネイロに決まりましたので、これにちなんだお話をさせていただきます。タイトルを少し大きめに“リオの策略”としました。昨年11月中旬、9日間ブラジルを訪問しました。高浜副知事を代表にしての、ブラジル移民100周年と愛媛県人会創立55周年を記念しての訪問でした。地球の真裏にあるブラジルは、一言で遠い国。余りの遠さに、できれば行きたくない思いでした。ブラジルは人口一億八千万人、日系人は百五十万人もいるそうです。松山空港から関空経由で約13時間かけてアメリカのヒューストンに着き、8時間待ちの後、乗り継ぎで今度は12時間かけてサンパウロに着きました。自宅を出てちょうど40時間後でした。サンパウロが人口1000万人。ここから約450キロ西南のリオは人口600万人の都市。飛行機で50分位の所。リオとは川の意味、デはのという意味。ジャネイロとは1月を意味する。直訳すると一月の川。リオというとすぐに連想するのがリオのカーニバル。毎年2月下旬、あのサンバのリズムで町中が沸き返るイメージです。TV中継などで見るだけですが、少なくとも私個人は、リオの町中至る所が踊りで沸きかえていると思っていました。実は会場のサンボドロモという広い通りで踊っていたのでした。そこは全長600メートルほどの普段何も無いところで、柵をして入れないようにしていました。片側は野球場のような階段式の見物席があり、反対側は、普段は学校の校舎に使っているビルでした。その間は約40メートルくらい。いかにも町のように見えるTVアングルで、紙ふぶきが舞い、毎年同じアングルで中継を見ていたのです。これは仕組みられているな——と思いました。カーニバルは4日間ですが、余りにもカーニバルが有名になり、世界中から年間何百万人も訪れる観光地になっているのでした。まんまと世界中がリオの戦略に乗せられていると思いました。普段は、毎日観光客のため、劇場でサンバのリズムでカーニバルをやっています。今回のオリンピック誘致も、ルーラー大統領が主張した、南半球の史上始めて南米で開催することの意味、五大大陸の団結という大儀、これに加えて市民、国民の圧倒的な歓迎振りが勝利を導いたのでした。役者が違っていました。ブリックスの一員のブラジル。未開発の大資源を持ち、今後の発展を期待されるブラジル。とても親日家が多く、今後の発展を祈らずにはおれない国でした。治安に問題があるとは思いますが、後7年でどう変わるか期待される魅力を秘めた国でした。



<ゲスト> 青鬼運送株式会社 代表取締役 青野賢治様

次回例会(11月19日)

【国際奉仕委員会アワー】

<会員誕生祝> 渡邊 道信氏(11/26) 横井 和美氏(11/28) 村上 敬朋氏(11/29)
 <結婚記念祝> 松本 篤氏(11/28) 矢野 暢生氏(11/29)
 <入会記念祝> 青野 明高氏(11/26) 原 真也氏(12/2) 久米 操氏(12/2)
 【俵屋】